キラリ室蘭人

泣きの楽器、津軽三味線の魅力を伝えたい

津軽三味線佐藤流家元 佐藤俊彦（さとうとしひこ）さん

年間100ステージ以上をこなす津軽三味線奏者。室蘭、札幌など道内６カ所で教室を開設。津軽三味線全国大会では、門下生による合奏で２年連続優勝。津軽三味線全国協議会理事。同北海道ブロック副代表。室蘭市出身、札幌市在住。38歳。

吉田兄弟をはじめとする若手奏者の台頭で、一躍脚光を浴びるようになった津軽三味線。圧倒的な迫力が印象的な和楽器だ。

しかし、そのルーツは決して華やかなものではない。目の見えない人たちが、その日の生きる糧を得るため、津軽地方の厳しい風雪に耐えながら人家の門前に立ち、弾いたという歴史から始まる。その後、民謡の伴奏楽器として定着。津軽三味線だけの演奏も注目されるようになった。

佐藤さんが津軽三味線を始めたのは10歳のとき。兄の文俊さんに誘われ、一緒に教室へ通った。当時は民謡歌手・金沢明子さんが大人気で、テレビなどで津軽三味線を目にする機会が多かったという。

２人はみるみるうちに上達。中学生になると、ステージに招かれ、人前で演奏するほどまでになった。

「兄の演奏の方が、お客さんの反応がいいんですよ。私自身、負けず嫌いなので、悔しくて…。でも、兄は本当に三味線が好きでしたね。やっぱり、好きな人にはかなわないんですよ」と佐藤さん。

病気を患いプロの道に進むという兄の夢はかなわなかったが、夢は弟に託され、実現。現在、兄は俊彦さんの活動を陰で支えている。

奏者の性格、年齢などが音色に色濃く反映されるという津軽三味線。佐藤さんは、新たな取り組みも重要としながら、伴奏楽器としての伝統を大切にした活動、指導をしていきたいと考えている。

「春夏秋冬を表現する津軽三味線は、歴史が物語るように本来は泣きの楽器です。今は力強く、明るい〝夏〟がクローズアップされていますが、繊細さ、わび、さびといった〝冬〟の魅力を皆さんに伝えたいですね」。

新年は1月4日、札幌の『かでるホール』での演奏会から佐藤さんの活動が始まる。

中央町の飲食店で開かれたミニコンサートでは、兄の文俊さん（左）と共演

ひとこと声

U・Iターン情報の入手方法は

室蘭市出身で、現在は市外に勤めていますが、実家のある室蘭に戻りたいと考えています。

就職先を探したいのですが、どのようにすればよいでしょうか。

（札幌市・男性）

お答えします

室蘭市独自で提供している転職情報などはありませんが、公共職業安定所（ハローワーク）では、毎週月曜日、地域の求人情報を発行しています。室蘭のハローワークでも、常用求人とパート求人の情報を提供していますので、室蘭管内（室蘭・登別・伊達市など）で、どういう職種の求人がどの程度の賃金で出ているか、ご覧になることができます。

自宅からの情報の入手方法は、ファクス併用電話から、（０１４３）２５－５５６６番に電話すると、説明がありますので、手順どおりに操作してください。ファクスで、最新の求人情報が入手できます。

また、インターネットでも、地域の情報を入手できますので、「ハローワークインターネットサービス」で検索してください。

そのほか、U・Iターンに関することなどは、お問い合わせください。

（産業振興課）

市職員の接遇マナーの向上を

市職員の接遇マナーについて、改善を求める声が数件寄せられています。

お答えします

職員の接遇については、研修や各職場内における上司の指導などによりマナーの向上に努めていますが、この度、市民の皆さんに、より親しまれる接遇マナーの向上を目指し、「接遇マニュアル」を作成し職員に配布しました。

これらの取り組みを進め、より一層、市民の皆さんに親しまれる市役所となるよう、好感の持たれる接遇を心掛けていきますので、ご理解をお願いします。

（職員課）

皆さんの声をお寄せください。
〒051－8511室蘭市幸町1－2
室蘭市市民対話課
☎㉕2193
ファクス㉕2835
Eメール shimintaiwa@city.muroran.hokkaido.jp